

2017年の世界と日本

青山学院大学特別招聘教授

さかき
榊 原 英 資
すけ

- * 世界経済は長い停滞期に
- * フロンティアがなくなつた
- * 今日よりいい明日はない
- * 日本は比較的平等な国
- * グローバル化の負の側面を意識
- * 世界で最も安全で健康な国
- * 受信能力は高いが、発信は下手
- * 権威と権力を分離するシステム
- * 世界に稀有な平等な社会
- * 低成長と低インフレを前提に



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は榊原先生においでいただきました。ご存じのように東京大学経済学部をご卒業後、当時の大蔵省に入省され、国際金融局長、財務官を経て、その後、慶應義塾大学、早稲田大学で教鞭をとられ、現在は青山学院大学の特別招聘教授をされております。

東洋経済も長年、榊原先生にいろいろお世話になっており、ご著書の『幼児化する日本社会』、『円高は日本の国益』は評判になりました。今年、続編となる『幼児化する日本は内側から壊れる』で、今日日本が置かれている状況をどう考えるのか、これからの世界の中で何をしなければいけないかを縦横に論じておられます。それでは榊原先生、よろしくお願ひいたします。

す。（拍手）

世界経済は長い停滞期に

榊原 ただいまご紹介にあずかりました榊原でございます。

今日は「2017年の世界と日本」というタイトルでお話をいたしますが、まず、最初にある世界経済見通し（World Economic Outlook）をもとに、IMFがいったい来年をどう見ているかからお話をしたいと思います。

実は今年、2016年は世界経済全体で言うところの景気減速の時期でした。2015年の世界の成長率が3.2%で、2016年は3.1%と――まだ終わっていませんが、そう予測され